

中四国大会結果報告

広島大学体育会バレーボール部同窓生の皆様

(同窓会連絡フォームへ登録いただいた皆様及び同窓会やコートの仲間等でご連絡いただいた皆様へお送りしています。)

いつも大変お世話になっております。

広島大学体育会バレーボール部です。

5/28～30に岡山県において、中四国大会が開催されました。

広島大学の結果は、以下のとおりです。

(男子)

予選 1 試合目 vs 鳴門教育大学

○2-0 (25-10、25-19)

決勝 T2 回戦 vs 福山平成大学

●1-3 (27-25、15-25、18-25、17-25)

ベスト 8

(女子)

予選 1 試合目 vs 愛媛大学

○2-1 (25-21、16-25、25-13)

予選 2 試合目 vs 鳴門教育大学

○2-0 (25-12、25-9)

決勝 T1 回戦 vs 鳴門教育大学

○2-0 (25-12、25-13)

決勝 T2 回戦 vs 広島文化学園大学

●0-3 (12-25、18-25、15-25)

ベスト 8

(広大バレー部 Twitter)

<https://twitter.com/hiro daiVOLLEY>

春季リーグ 2 位の男子は第 2 シードを獲得し、13 年ぶりのベスト 4 を目指しましたが、福山平成大学にリーグ戦以上の差をつけられ、ベスト 8 どまりとなりました。ジャンプサーブ陣がフローターに切り替えたものの、流れを切るミスはなくなり、相手が速いレフト平

行とライトエースの攻撃を軸にした 2 セット目以降は、チャンスらしいチャンスがありませんでした。

相手がチャレンジャー精神で向かってくる中で、広大は受けて立つのか、こちらもチャレンジャーとして臨むのか、チームとしての一体感に差があったように感じました。相手は飛び抜けた選手はあまりいませんが、パフォーマンスがアグレッシブで、試合中に成長を感じる場面がたくさんありました。一方、広大は試合が進むにつれて疲労感ばかりたまる印象なので、試合をすればするほど成長できる、楽しくなるチームに変えていかなければなりません。

女子は、初戦で力差のない愛媛大学と対戦し、課題が随所に出ながらも、試合に勝つ意識がチームで統一できていたと思います。レシーブは、力が入り過ぎてカチあげてしまったり、上げるだけで 2 本目、3 本目を意識できていない選手がほとんどですが、唯一、力を抜いてプレーできている有馬がチームのリズムをコントロールし、今後の勝ち癖にもつながる試合となりました。

文化戦では 4 年生が不在だったため、新宅と尾崎のツーセッターで臨みました。常に 2 枚攻撃となるため苦戦必至でしたが、二人のライトレシーブから、ついに目覚めたエース有川へ持っていく形が嵌り、他校の複数の先生方から「広大良いね」と仰っていただけました。この時期に 3 年生以下で試合が出来た経験は非常に大きく、今後の楽しみになるベスト 8 だったと思います。

また、59 期生の西先生が監督を務める至誠館大学は、ベスト 4 に初めて進出すると、準決勝で広島文化学園大学をストレートで下し、決勝では中国学園大学相手にマッチポイントを先に奪う大熱戦を繰り広げました。小粒な選手が多い印象ですが、積極的に色んな選手を起用することで、中四国 No.1 と言っても過言ではない選手層の厚さを築き上げられています。西日本インカレでは、54 期生の古達先生が監督を務める千里金蘭大学とともに、上位進出を期待しています。

今大会もたくさんのご支援ご声援、誠にありがとうございました。
今後は、女子が 6/12 の国体広島県予選に出場を予定しています。
引き続きよろしく願いいたします。